平成23年12月8日

認可)　河北新報　港

沿岸農村 存続の危機

東北大で復興シンポ 研究者ら課題指摘

東日本大震災で被害を受けた農業・農村の復興に関する技術シンポジウムが7日、仙台市青葉区の東北大百周年記念会館・川内萩ホールで開かれ、研究者や農業関係者ら約450人が参加した。東北大大学院農学研究科と農業・食品産業技術総合研究機構（茨城県つくば市）の主催。

農学研究科の両角和夫教授が、被災地の地域社会の維持と存続の課題について基調講演した。大きな津波被害を受けた陸前高田市の農村の兼業農家が、震災前は中心市街地の企業に勤めて生計を立てていたことを紹介。「今回の震災は兼業農家の大事な農外就業の場を奪い、そのことが集落の存続の危機につながっている」と指摘した。

農研機構の研究者が、農業施設の被害と復興の取り組みや、津波被害農地の塩害対策技術などについて報告。「水田農業の復興に向けた技術とは何か」とのテーマでパネル討論も行われた。